

るものに似たり。而して第二通に十七日とあるは、第一通に廿五日とするを是なりとすべし。朝倉宗滴が越前金津より江沼郡橋に入りたるは七月廿三日に在ればなり。

八月十六日。朝倉義景、諸士の江沼郡敷地口に於ける戦功を賞す。

【齋藤文書】

一三六〇

去十三日於加賀國江沼郡敷地口合戦之時、頸一討捕之、粉骨忠節神妙、彌可勵戦功者也。謹言。

八月十六日

在判

齋藤左京進どのへ

（上也）

義景

【水屋文書】

一三六一

去十三日、於加賀國江沼郡敷地口合戦之時、負切疵二ヶ所、所獲疵二ヶ所、粉骨神妙、彌可抽戦功者也。謹言。

八月十六日

在判

水屋彦六どのへ

【鳥居文書】

一三六一

去十三日、加賀國於江沼郡敷地口合戦之時、首一討捕之、并中間兵衛三郎被矢疵二ヶ所、忠節神妙、彌可勵軍功者也。恐々謹言。

八月十六日

義景 在判

鳥居與一左衛門尉殿

【桑原文書】

一三六三

去十三日、於加賀國江沼郡敷地口合戦之時、被切疵一ヶ所、忠節神妙、彌可抽戦功者也。謹言。

八月十六日

在判

桑原源三郎どのへ

八月二十日。朝倉宗滴、長尾景虎の被官直江景綱に、江沼郡に於ける戦況を報す。

【武家事紀】

一三六四

就信州御進發之儀、急度以使僧令申候。具に御取成可爲本望候。去月廿一日一乗谷居金津著陣、廿二日堺目細呂木野陣、廿三日加州橋山陣、山遣足輕村々放火。然處ニ若者共不及案内、大聖寺・千束・南郷此三城、其外菅生敷地、上河崎迄追落、敵之頸六七十討捕、其外數輩福田川口エ入、翌日鎧・具足河ヨリ拾擧事不知其數候。味方ニも手負討死候。廿三日橋山ニ居陣、廿五日ニ至敷地令陣替、江沼郡限際悉焼拂候。然間大聖寺・敷地・菅生、此三箇所居陣候處ニ、今月十三日四郡之者以猛勢打立、山際・道筋・濱手三手ニ寄來。然間濱手人數一萬餘ニテ、午刻當城之山二三町指寄、既射掛候間、兼日申付候濱勢之内七八百計召連掛向、頸五六十討捕本城へ打歸候處、又道筋・山際之敵數萬人、一統敷地・菅生兩口へ到、未刻押懸於柵際、數刻相戦切崩、數百人討取、遠追ハ仕間敷之由依申定、十町計追捨踏留候。存外敵以多勢手強ク相掛候。雖然我等如、下知調儀相調、各撰手分捕高名仕、於石川・河北鎧をも

指出者大略被打取、殘黨等兵具以下悉捨之、到能美・石川敗北之旨、下郡ヨリ罷出候者慥申候。然者此表之儀、先一行口捨、時宜一々可被御心安候。何篇當城之儀者、縱能美・石川雖入手候、出陣ニ可相定候條、要害普請以下申付候半ニ候。英林方可有演說候。恐々謹言。

八月廿日

宗滴

直江與兵衛殿

（宗滴が同日附を以て飛驒の三木良頼に與へたる書狀は禪昌寺明叔録に見ゆ。戦況前に同じ。又この戦に就いては、白山宮莊嚴講中記録弘治元年の條にも記さる。）

閏十月廿一日。遊佐續光、珠洲郡妙嚴寺定欽に、越前に脱走中その斡旋したるを賞し、直之郷の内西方寺分を扶持す。

【妙嚴寺文書】

一三六五

（端書）弘治元年進之。於越前種々依爲馳走、直之郷の内西方寺分悉可有知行